| 学校番号 | 105 |
|---|---|

# 令和８年度　芸術科

| 教科 | 芸術 | 科目 | 書道基礎 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | | | | | | | |
| 副教材等 | 応用ペン習字 | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで培った技術等を発展させ、作品制作に取り組みましょう。
・さまざまな書体の変遷を知った上で、現在使っている文字の良さも体感し、生活の中に文字を活かせるようになることを目指します。
・授業では、鑑賞を通して制作意図や技術を学習し、各単元・毎授業の取り組み方、作品やプリント課題の提出などにより評価を行います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
書道の知識・技能を身につけた上で自己表現に活かす。
【思考力、判断力、表現力等】
書写能力を高め、表現と鑑賞の能力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】
書道の幅広い活動を通して、自ら学ぶ力を育成するとともに、書を愛好する心情を育て感性を豊かにする。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 創意工夫を生かした書表現をするために必要な書技を身につけ、創造的かつ主体的に表現している。 | 書を形成する要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、古典臨書、創作の書表現を工夫し、どのように表現するか。 | 書や文字文化に関心を持ち、書の文化や伝統について理解を深めようとしている。古典の学習を通じて、主体的に鑑賞活動を行い、その喜びを味わおうとしている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 一学期 | 仮名の学習 | 仮名の基本用筆<br>・仮名の古典を学ぶ<br>「高野切第一種」<br>「寸松庵色紙」<br>「関戸本古今和歌集」<br>・変体仮名<br>小テスト | a:線質や字形、紙面構成の特徴を理解し、書風を生かして表現ができる。<br>b:古典の線質を理解し、筆の呼吸を生かした表現を工夫している。<br>c:仮名の書の変遷に関心を持ち、意欲的に臨書や鑑賞に取り組んでいる。 | 制作レポート<br>提出作品 | 制作レポート<br>提出作品 | 参加状況<br>制作レポート<br>提出作品 |
| | ペン字 | ・応用ペン習字<br>・暑中見舞い | a:美しく正確に書いている。<br>b:文字の性質、書く状況を理解し正確に書いている。<br>c:実用的な書として実生活に役立つように興味・関心を持って取り組んでいる。 | | | |
| | 隷書の学習 | ・隷書の基本用筆<br>・隷書の古典<br>「曹全碑」<br>「乙瑛碑」 | a:古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現ができる。<br>b:古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。<br>c:隷書の字形や用筆の特徴に関心をもっている。 | | | |
| 二学期 | 刻字 | ・原稿づくり<br>・彫刻<br>・着色 | a:意図に応じた表現を構想し、古典の字形や用筆等を参考に個性的な表現をすることができる。<br>b:意図に応じた表現を構想し、古典の字形や用筆等を参考に個性的な表現を工夫している。<br>c:刻字に関心をもち、様々な古典の書風や特徴を取り入れて作品制作しようとしている。 | 制作レポート<br>提出作品 | 制作レポート<br>提出作品 | 参加状況<br>制作レポート<br>提出作品 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 三学期 | 漢字仮名交じりの書 | ・半切1/2 作品制作 | a:漢字仮名交じり書を書く上で必要な書技術を身につているか。<br>b:漢字仮名交じり書を形成する要素を知覚しながら、制作しているか。<br>c:題材に関心を持ち、学習に主体的に取り組もうとしているか。 | 制作レポート<br>提出作品 | 制作レポート<br>提出作品 | 参加状況<br>制作レポート<br>提出作品 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度